

応募者名	一般社団法人サトヤマカイギ	分野	誰一人取り残されない社会
取組名称	地域全体を教育先端都市に！持続可能な集落まるごとDX事業	取組地域	石川県白山市白峰地域全域

概要	
取組内容	石川県白山市白峰地域。築100年以上の古民家が密集して町場のような美しい景観が保たれる地域でありながら、人口減少、空き家、観光産業の衰退、少子高齢化、後継者不足等様々な問題が複雑に絡まりあい解決が困難となっていた。そこで、2020年2月に地域の区長会において、地域全体を都会の人材育成ニーズに応えることに特化した教育先端都市を目指すことを決定。その施策の一つとして、8つの地元商店の商材を、AIを活用した無人店舗に集約し、地元大学の学生によるサポートを含めた、地域発24時間稼働する「白峰みんなの店舗」の運営を実現。人件費を極力抑える中で地域全体の利便性並びにサービス向上に大きく貢献している。
実績や効果	学生によるデータ分析結果から判明した購買需要の高い20時～23時を各店舗がカバーすると、1店舗当たり週21時間の追加業務となる。これを8店舗それぞれが実施すると、月に全体で約67万円の人件費がかかる。無人店舗の月額運用は約5万円であり、はるかに低コストで利便性の高いサービスの提供が可能となっている。
取組全体を通じて訴えたいポイント	過疎化が進む地域は経済が回っていない。しかし豊かな文化・自然は残されている。地域の課題解決ではなく、経済圏を牽引する都市の課題・ニーズを、地域リソースにより解決していくためのビジョン（物語）の創出と、そのビジョン達成に必要なテクノロジーの選定、そして最も重要な若者の参画こそが、本事業の本質である。

詳細	
地域の課題解決・魅力向上	高齢化・空き家問題・地域店舗担い手不足・観光産業の衰退という多様な課題が絡み合う中で、地域全体を「丸ごと学校（教育先端都市）」へとトランスフォームし、地域が有する豊かな自然・文化を活用した学生向けSDGs研修や企業研修を実践。空き家の教室化や住民が講師になるなど持続可能な集落の実現を図っている。
独自性・先進性	地域に訪れる研修者が増える中で、商店の後継者・担い手不足による販売機会の損失が発生。地域内の8つの商店が集い、地元企業、地元大学生との連携から、空き家を活用した顔認証決済システムを搭載した無人店舗を運営。大学生が地域商材の在庫管理、販売データ分析、商品のAI学習等のオペレーションを行っている。
持続性・発展性	地元大学にとって地域が魅力的な教育研究フィールドとして位置づけられ、継続的な大学生の参画が見込める。また空き家を活用した無人店舗という側面から店舗運営にかかるランニングコストを極力落とした運営が可能となっている。また、デジタル推進委員に任命された学生による住民向け利用講習会等も開催している。
他地域への横展開	「丸ごと学校」という地域全体の運営を、産学官民金連携により創出した「株式会社YOSITAI」という民間企業によって運営。また、このスキームを横展開するために、企業・大学等の繋がりから、（一社）サトヤマカイギを設立。既に、白山市木滑地域、静岡県焼津市、長野県飯綱町、福島県磐梯町等で横展開されている。
取組を進めるうえで苦勞した点	地域住民と地元大学の関係によって定められた「地域を丸ごと学校にする」というビジョンを、連携先である企業と共有することが苦勞した点である。単に自社ソリューションを売り込む企業ではなく、真にこの集落を教育先端都市へとトランスフォームすることに向き合ってくれる人やパートナー企業との出会いが重要となる。
取組の成果を上げることが出来た秘訣・工夫	本事業の中心で若者が積極的に活動している点である。サトヤマカイギには、地域創生に意欲を示す全国の中学生から大学生にいたる若者が参画している。地元で開催されるお祭りにも地域住民の孫の世代にあたる学生が積極的に参加している。集落全体の変革に対する多少なりとも発生する戸惑いを調和する重要な存在である。
今後の展望	既に収集した地域全体の3Dデータを用いて、集落全体のデジタルツインを構築する計画である。集落全体を使っでの学びが特徴である点から、学習者の安全安心の担保、地域空間へのデジタル教材の展開といった事業を計画している。また、学生による学内（地域）の環境データをセンシングするデバイスの開発も計画している。